

日本原子力学会 核燃料部会
第 38 回全体会議 議事録

日 時：平成 24 年 9 月 20 日（木）12:00～12:30

場 所：広島大学東広島キャンパス

出席者：約 20 名

[1] 部会長挨拶

・岩田部会長より次の通り開会の挨拶があった。

先日の運営小委員会で出された意見であるが、HPを充実させ今後の部会の活動を活発にしていきたいと思っており、そのためのアジェンダ設定を考えていきたい。

学会に設置された事故調に核燃料部会からも参加することにしており、皆さんの協力をお願いします。

また、核燃料部会の活動は将来を見据えてポジティブにアグレッシブにしていきたいので、よろしく。

[2] 庶務幹事よりの報告

・高松庶務幹事より、資料を用いて、活動状況の報告、予算の説明、運営委員の紹介及び今後の活動計画の説明がなされた。これらに対して特に質問、意見はなかった。

2-1. 活動報告

2-1-1. 総会：平成 24 年 9 月 20 日（木）於、広島大学東広島キャンパス

2-1-2. 運営小委員会：

例年であれば運営小委員会を上期に 3 回開催し、その 2 回目を夏期セミナー時に行うが、今年度の夏期セミナーでは時間の制約等の理由から運営小委員会を開催せず、2 回の開催となっている。

・平成 24 年度 第 1 回 平成 23 年 5 月 29 日（火）

・平成 24 年度 第 2 回 平成 23 年 9 月 19 日（水）

2-1-3. 核燃料・夏期セミナー：第 2 回軽水炉燃料・材料・水化学夏期セミナー開催（核燃料・材料・水化学 3 部会共催）

・平成 24 年 7 月 11 日（火）～13 日（木）

・島根県松江市しんじ湖温泉「ホテル一畑」

2-1-4. 燃料高度化ロードマップ実行WG

・平成 22 年度：「燃料高度化技術戦略マップ 2008—2009」のローリングに着手

・平成 23 年度：平成 23 年度末で終了することになっていたが、東日本大震災の影響により活動できず。

→WG 活動を平成 25 年度まで 2 年間延長。

・平成 24 年度：ローリング再開

2-1-5 「溶融事故における核燃料関連の課題検討」WG

・核燃料の専門家の視点から溶融事故における核燃料関連の課題について検討を行っており、

平成 23 年 10 月 5 日（水）に第 1 回会合を開き、以降、活動中。

→活動内容を核燃料部会ホームページにて公開。

2-1-6. 「WRFPM2014」の準備

・平成 24 年 6 月 20 日：第 1 回組織委員会。仙台国際センターでの開催、今後のスケジュール、運営方法決定。

9 月 2～6 日の Top Fuel 2012 @マンチェスターにて開催告示済、2013.9 の LWRFP2013 にて詳細紹介予定。

・平成 24 年 7 月 26 日：第 1 回実行委員会。今後のスケジュール、実行タスク項目、メンバー等決定。

2-1-7. 学会事故調

核燃料部会より山中先生が参加。

2-2. 核燃料部会 平成 23 年度収支報告及び平成 24 年度予算

・平成 23 年度の一般予算収支は、収入が 250,395 円、支出が 250,395 円で収支差額が 0 円となり、平成 23 年度末での繰越金は 810,079 円となった。また、夏期セミナー及び燃料高度化ロードマップWGは震災の影響で開催されず、燃料高度化ロードマップWGの H23 年度予算 290,736 円は H24 年度予算への繰越金となった。

・平成 24 年度の一般予算は、収入が 251,000 円、支出が 251,000 円で計画されており、平成 24 年度末での繰越金は 810,079 円になると予想される。

2-3. 運営小委員会委員

2-3-1. 第 37 回全体会議(平成 24 年 3 月 19 日)以降の運営小委員交代

(日本原子力研究開発機構) 浅賀 健男 委員 → 逢坂 正彦 委員
(日本原子力発電) 北嶋 宜仁 委員 → 高松 樹 委員
(日本原子力研究開発機構) 更田 豊志 委員 → 永瀬 文久 委員

2-3-2 平成 24 年度業務担当

担当	H24 年度担当者
広報	[福井大]宇笠委員
部会報	[東京電力] 太田委員
国際活動	安部田副部長
国内企画(横断活動、年会時企画)	[名大]長崎委員、[電中研]木下委員
庶務幹事(財務含む)	[日本原電]高松委員
夏期セミナー幹事	[北大]佐藤委員、[日本原燃] 大江委員
部会代表	部会等運営委員 安部田副部長
	評議員 岩田部長、安部田副部長

【参考】部会員数 434 名 (H24 年 9 月 5 日現在)

2-4. 今後の活動計画

- (1) 部会報 : 第 48-1 号(平成 24 年 10 月発行予定)、
第 48-2 号(平成 25 年 2~3 月頃発行予定)
- (2) 講演会 : 未定
- (3) 国際会議 : NuMat2012(平成 24 年 10 月 22 日~25 日、於;大阪)
- (4) 全体会議 : 平成 25 年春の年会時 (平成 25 年 3 月 26 日~28 日、於;近畿大)
- (5) 運営小委員会 : 平成 24 年度第 3 回運営小委員会(平成 24 年 12 月頃予定)
平成 24 年度第 4 回運営小委員会(平成 25 年春の年会時)

[3]意見交換

・出席者より「バックエンドが気になっており、戦略的に出来るよう関係者が集まって議論・展開して行くべき。」との意見が出され、岩田部長より「誰かがやっているだろうというのはダメ。もう一度それぞれの研究テーマの役割を考え将来に向けポジティブなアジェンダを作っていく必要があると考えており、皆さんの積極的な参加をお願いしたい。また、部会の

HPが化石化しており、これをなんとかしていきたい。」と返答された。これに対し出席者より「燃料・材料・水化学は相互に連携しているが、これからは安全も関わってくる。その連携のためにもHP等活用されると良い。」との意見が出された。

・出席者より「過去の経験からCRが 1,000°Cで溶けたことがある。」との経験談の後に「溶融燃料(デブリ)についてどの部会で扱うべきか。」との質問があり、岩田部会長から「その役割は核燃料部会であり、溶融事故における核燃料関連の課題検討WGを立ち上げ主査を山中先生にお願いしている。WGではデータの部分と解釈の部分をしっかり分別した検討が展開されるだろう。」と返答された。山中先生からは「ZrとSUSの共晶系は重要であると考えており皆さんの協力を得ながらしっかり対応したい。」との発言があった。さらに岩田部会長から「WGの下に鈴木先生主査のSWGも設置しており、是非若い人がアイデアをだせるような活動にして欲しい。」と要望された。

以 上